



## 型 破 り

校長 土屋 信行

「型破りな教師になりたいんです。」過去の勤務校で、ある若い男性教員にこう言われたことがあります。この教員は、返事や挨拶をすること、学校・学年の決まりや申し合わせに従うことを好まず、自分の考えや思いのみで子供への指導を行う傾向が強くありました。管理職であった私が、そのことについて注意した時、この言葉が返ってきたのです。

「型破り」と「形無し」は、ご存知の方も多いかと思いますが、亡くなられた歌舞伎役者の18代目中村勘三郎さんが、インタビュー等の折によく話されていたことです。私も自分の話の中によく引用していましたので、上記の教員には次のように伝えました。

～どの世界でも、まず最初にしっかりと型、基礎・基本を身に付けることが大切で、その上で、それを破る、次の段階に進むからこそ「型破り」と言うのです。あなたのように、社会人としての常識や教師として必要な素養等を、きちんと身に付けるべき時にそれをせず、自分本位の振る舞いを繰り返す様子は「型破り」とは言わず「形無し」と言います。～（実際はもっときつく言いました。）

これを伝えても、その教員の態度や子供への指導が著しく変わるということはありませんでしたが、少なくとも他と合わせるべき最低限の線を守るようにはなりました。今は40歳近くになっているはずです。どうしているのでしょうか。

「型破り」と「形無し」の違い、これを別の言葉で表すなら、「個性」と「我が儘」の違いとも言えるでしょう。違う解釈の方もいらっしゃると思いますが、皆がやるべきこと、果たすべき役割等をしっかりと行った上で、自分ならではのよさを発揮するのが「個性」であり、そこに人に迷惑をかけるような自分勝手な要素が含まれていれば、それはただの「我が儘」であると私は考えます。

「型にはめる」と言うと、何かがんじがらめの悪いイメージをもつ人もいますが、どの世界においても、まず正しいこと、きちんとしたことを身に付けることの大切さを忘れないようにしたいものです。

さて、いよいよ明日は運動会です。決められたルールの中にあっても、しっかりと個性を発揮できる「型破り」な子供たちが多数出現し、大活躍してくれることを期待しています。多くの皆様のご来校を心よりお待ちしております。

